

平成27年度第2回農業大学校外部評価委員会 議事録

I 日時 平成28年2月25日(木) 10:00~12:00

II 場所 大分県立農業大学校 会議室

III 参加者 外部評価委員

| | | |
|-------|---------------------------------|---------|
| 教育関係者 | 大分県高等学校教育研究会農業部会長 (大分東高等学校長) | 田中 豊彦 氏 |
| 生産者 | 地元女性農業者 | 古庄 京子 氏 |
| 卒業生 | 大分県立農業大学校同窓会副会長 | 湯浅 正徳 氏 |
| 農業団体 | 大分県農業協同組合常務(営農担当) | 坂本 茂則 氏 |
| 行政 | 豊後大野市農業振興課長 | 左右知新一 氏 |
| 行政 | 大分県中部振興局生産流通部長 | 勝本 英樹 氏 |

農業大学校

校長、副校長、次長、農学部長、研修部長、教務・学生課担当

IV 次第

1 開会 (進行:植木次長)

2 あいさつ

(1) 校長あいさつ

(2) 田中委員長あいさつ

3 議事(議長:田中委員長)

(1) 平成27年度重点目標の取組状況及び評価について

運営方針1「活気あふれる学園づくり」

【数値目標】基礎学力を備えた入学生の確保:60名について校長より説明

《質疑・応答》

(坂本委員)

・来年度入学生の女子学生は増えているが、女子学生の主な出身高校はどこか。

(大学校)

・農業系学科を有する高校の中では、特に大分東高校が多い。

(湯浅委員)

・大分東高校はどのような高校か。

(田中委員長)

・大分東高校は大分市内にあり、普通科、農業科を併設する総合選択制高校である。総合選択制は生徒が興味・関心や進路に応じて一部の授業科目を乗り入れすることにより選択することができる。つまり、普通科の生徒が農業科の科目を選択でき、逆に農業科の生徒が普通科の科目を選択することが可能である。今年度、初めて農業系2学科の卒業生を送り出す。農大入学予定者の中には、普通科の女子生徒が1名いる。

(勝本委員)

・基礎学力を備えた入学生の確保について、入学試験でどのような試験の方法で基礎学力を備えているのかを判断しているのか。また入学生の農家出身者の割合はどれくらいか。

(大学校)

- ・入学試験では数学Ⅰ及び小論文の試験をもとに基礎学力の定着状況を把握している。入学生の農家出身者割合については、まだ調査を行っていないため正確な数値は把握できていないが、例年、入学生の約6割程度が非農家である。

(勝本委員)

- ・小論文の試験は、受験者の国語力を知る上では重要と思われる。

(坂本委員)

- ・入学試験の合格者の中で1名入学辞退が出ているが辞退した理由は何か。

(大学校)

- ・本校の合格発表後に、私立4年制大学に合格をしたので辞退した。

(田中委員長)

- ・そのほかの意見について確認。(特になし) 重点目標1の「活気あふれる学園づくり」基礎学力を備えた入学生の確保：60名については、大学校の自己評価は2と目標未達成ではあるが、受験生確保に向けての学校側の様々な取り組み状況を評価し、委員評価としてはワンランク上の3の目標をほぼ達成としたい。

(全員了承)

運営方針2「質の高い教育の提供」

【数値目標】全国大会出場最低1名1課題について校長より説明

(古庄委員)

- ・12月にある校内プロジェクト発表会を毎年観ているが、年々レベルが上がっている。学生や指導されている先生方がよく努力をされており、頼もしく思う。

(湯浅委員)

- ・プロジェクトの課題については、学生が自分達で考えて決めているのか。あるいは、県の農業研究の機関等への相談をしているのか。

(大学校)

- ・課題については学生の希望を聞き、担任と学生で相談しながら決定する。内容によっては各振興局や農林水産研究指導センターにも相談しながら、現地の状況を踏まえ課題を決めている。

(湯浅委員)

- ・非農家の学生は1人でプロジェクトの課題決めるのは厳しいのでは。学校として非農家の学生に対し、こういった指導を行っているのか。

(大学校)

- ・入学後直ぐにプロジェクトの課題を決めるのではなく、講義や実習を通じて農業に関する学習を積んだ後、担任と相談をしながら決めている。

(勝本委員)

- ・農業法人等の期待に応えられる学生の育成とあるが、農業法人等から具体的な人材育成に関する要望が出されているのか。またその期待に応えるため、学校としてこういった指導を行っているのか。

(大学校)

- ・多くの農業法人から知識や技術だけでなく、即戦力として現場の指示に従い動ける技能(基礎能力)を備えた人材が欲しいと要望がある。また希望する学生に農業機械応用実習の講義等において動力噴霧器や管理機、トラクタのロータリー耕等の効率的な使用の仕方についても学習している。また、来年度からはメンテナンスや保守点検についての学習も強化したいと考えている。

(左右知委員)

- ・12月に開催された校内プロジェクト・意見発表会に出席した。その中で、意見発表で最優秀賞を受賞した農業後継者を志す学生の発表が、農業大学校の学生らしい発表であると感じた。こういった発表をもっと若い人にも聴いて欲しい。

(大学校)

- ・本年度も三重総合高校の農業科の生徒が50名ほど出席し、発表を聴く場を設けた。また、1月に玖珠美山高校で「卒業生に学ぶ」のテーマで九州地区発表会に出場する3名による発表も行った。今後も積極的に実施したい。

(田中委員長)

- ・総合経営特別講座を受講した学生の進路について教えて欲しい。

(大学校)

- ・12名の受講者の内、農業自営が5名、雇用就農が3名、農業研修が1名、農協への就職が2名、進学が1名となっている。

(田中委員長)

- ・そのほかの意見について確認。(特になし)重点目標2の「質の高い教育の提供」全国大会出場最低1名1課題については、大学校の自己評価は4であり、委員会としても同様に目標を達成しているということで、評価は4としたい。

(全員了承)

運営方針3「新規就農者の確保」

【数値目標】全学生・研修生の進路決定、就農率80%以上の確保について校長より説明

(勝本委員)

- ・就農準備研修の研修生の就農率はどれくらいか。

(大学校)

- ・例年、研修生の就農率は80%近い状況にある。今年は研修生の年齢が高く、定年退職をされて来られた方が3割ほどいるため、農業法人での雇用が厳しい状況にある。また、地元では農地を持たないため自営就農も厳しい状況にある。

(勝本委員)

- ・そういった方々には、集落営農法人で働くということではできないのか。

(大学校)

- ・集落営農法人でオペレーターという形で働く希望があれば、本校で大型特殊免許(農耕車限定)の取得等も行っている。研修生の中には週3日程度又は半日といった希望もありパートという形で就職先を探している方もいる。集落営農法人のオペレーターへの就農情報がこちらまで届かないのでそういう情報も欲しい。

(勝本委員)

- ・集落営農法人では、オペレーターが確保できないと聞いたことがある。その様な所とのマッチングさせるシステムがあまりない状況にあるので、研修生へ情報を伝えられれば就農率も上がるのではと考えられる。

(大学校)

- ・本校では定期的に振興局との連携会の中で、生産流通部との情報交換を行っている。また、高齢者のパート的な就農先がないかについても情報が欲しい。

(左右知委員)

- ・豊後大野市では集落営農法人の後継者問題や雇用の確保が問題となっている。国の新規就農者の青年就農給付金は、原則45歳までとなっているが、豊後大野市では55歳まで就農すれば給付金の支給対象とするので、豊後大野市内で就農を希望される方がいればお話をいただきたい。また農業大学校での青年就農給付金(準備型)の受給者は何名か。

(大学校)

- ・本校での受給者は2年生が7名、1年生4名、研修生1名の12名である。このうち就農される方が8名である。豊後大野市内にも自営が1名いる。

(田中委員長)

- ・給付金の受給者が年々減ってきているが、その理由は条件が厳しくなっているためか。農業大学校への進学希望者に、この制度について周知したいので確認しておきたい。

(大学校)

- ・条件は厳しくはなっていないが、就農してもすぐに離農してしまうケースもあり、近年は就農意欲の高い希望者に対してのみ受給を行っている。入学して間もない1年生非農家の学生には、農業に対する理解が十分できていないため、10月の先進農家等体験学習終了後、将来、就農に向けた意思が確認できた時に申請させるように指導している。

(勝本委員)

- ・就農準備研修への募集はどういう方法で行っているのか。大分市内の集落営農法人でも雇用労働力が不足しているところが多く、集落営農で働く方の中には、年金プラス毎月十数万円程度の賃金がもらえるとありがたいといった話もあり、これから退職される方で、研修後は就農ができるといった話ができれば、雇用の確保及び農大の研修生が増えるのではと考えられる。

(大学校)

- ・就農準備研修の募集の方法としては2つあり、職業訓練枠と一般枠である。職業訓練枠では、ハローワークを通じて募集し、高等技術専門校から委託訓練を行っている。ただし、職業訓練の関係で、正社員としての雇用が原則である。

(田中委員長)

- ・そのほかの意見について確認。(特になし) 重点目標3の全学生・研修生の進路決定、就農率80%以上の確保については、大学校の自己評価は2と目標未達成であるが、今後、概ね就農率が70%以上になることを踏まえ、ワンランク上の3の目標をほぼ達成としたい。

(全員了承)

(2) 平成27年度 魅力ある農大の実現に向けた取組概要について校長より説明

(勝本委員)

- ・基礎力を客観的に図る指標はあるのか。

(大学校)

- ・具体的にはないが、入学試験の数学などの学力試験や、小論文以外に面接を重視している。ただし、10分という短い時間の中で判断することが難しい場合もある。実際本校を希望して入学したが、職員の指示した内容を具体的な行動に移行できない学生もおり、その様な学生にも農業への夢を実現させることも、重要な使命として考えているが、当該学生だけを対象に十分な指導が出来にくい状況でもある。今後は、農業大学校だけでなく、小学校や中学校段階から、将来の農業の担い手を育成する土台づくりを行う環境が必要である。

(勝本委員)

- ・入学を希望する生徒に、自分がどれだけ農業に向いているかどうか判断できるチェックシート等を作ったらどうか。

(田中委員長)

- ・農業大学校に入学してからでは遅いので、高校の進路指導の段階で行うのが良いのではと思われる。

(湯浅委員)

- ・私は、農家の長男として生まれ、小さい時から親の後ろ姿を見ながら、農業の大変さや面白さを知った。農業の後継ぎとして考えた時に、必然的に農業高校へ進学し、更に、農業大学校のオープンキャンパスに参加してから進学を決めた。農業大学校に入学し、将来、農業をするためにここで知識や技術を学びたいという意識が強かった。農業大学校で、作物の見方などを含め、基本的な事をしっかり学ぶことにより、儲かる農業ができるはずだと確信している。そのためにも、将来農業をするといった強い意識づけができている学生の入学が必要だと考える。

(3) その他 平成28年度主な行事日程について副校長より説明

《質疑・応答》

- ・平成28年度の行事日程については、特に問題なし。
- ・次年度も引き続き、外部評価委員として継続していただくことを校長より依頼。

(田中委員長)

- ・議事終了と進行協力へのお礼。議事内容等については、ホームページ等で公表することを確認。

4 閉会